

東日本フェリー 函館ターミナル



所在地：北海道函館市港町3丁目19番2号
 延床面積：3,879.67㎡
 構造・規模：鉄骨造、4階建
 施主：フローリッシュリアルエステート(株)
 設計：阿部設計室
 施工：建築／五洋・清水建設共同企業体
 電気／浅海電気(株)札幌支店
 オープン：平成19年9月

函館から青森への航路に双胴型では世界最大級の高速フェリーの運航を開始。
 これに先だってオープンした函館フェリーターミナルの照明は、不特定多数の利用客を考慮し、
 眩しさを抑制した快適な明るさを確保しつつ、省エネが図られています。

ガラス張りの光あふれるフェリーターミナル。海と往来する船を一望できる観光客の憩いの場を形成

東日本フェリー(株)が、函館から青森への航路の主力船として導入した、時速70kmの高速フェリー「ナツチャンRera」が平成19年9月1日に運航を開始。全長112m、幅30.5mで、双胴型高速フェリーとしては世界最大級を誇っており、道内への観光客増加など、地域経済への寄与が期待されています。高速フェリー就航に先立って、新しく4階建ての函館フェリーターミナルもオープンしました。港の風景を前に4階までセットバックした総ガラス張りの眺望豊かな建物で、中央を高さ29mの吹抜け構造にするなど、光あふれる開放的なターミナルとなっています。1階にはチケットカウンター、在来フェリー乗場、お土産ショップ、2階は待合室、イベントスペース、3階は高速フェリー乗場と待合室、4階はVIPラウンジで構成されています。

遮光角15°のコンパクト形蛍光灯ダウンライトを中心に使用。待合室には昼白色の光できらめき感を創出

出迎え、待合せ、集合の場でもある1階スペースは、老若男女を問わず、身障者も含めて利用形態は様々のため、照明はグレアを少なく、案内表示板は見やすくすると共に長時間の点灯を要することを考慮し、各階のベース照明は、遮光角15°の42Wコンパクト形蛍光灯ダウンライトを中心に採用して、眩しさやチラツキを抑制しつつ、消費電力の低減を図っています。1階のチケットカウンターの照明は、32WHF蛍光灯2灯用埋込器具バツフル付の連結配置とし、眩しさもなく明るく和やかな雰囲気をつくり出しています。

2階、3階の待合スペースは、その開放感を損なわないよう42Wコンパクト形蛍光灯ダウンライトの規則配置を行っています。これにより時間待ちをしている人々に期待感を与えていると同時に、目の前に広がる青い海と往来する船が見やすく、一望できる憩いの場が形成されています。

3階には、そのまま乗船できる高速フェリー乗場が設けられており、その通路となるガラス張りの傾斜壁に沿って15W形電球形蛍光灯ランプガーデンライト(床上高さ965mm)が設置され、頭上の斜めの柱に接触しないようにすると共に、足元を照らして誘導効果を高めています。



ガラス張りの広い傾斜壁からの優しい漏れ光により、北海道の表玄関にふさわしいモニュメントを形成



1階玄関ホールから奥(喫茶室)を望む見やすい光環境を創出



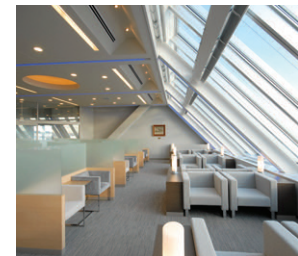
案内表示板をはじめ、3階待合室の照明 昼白色のコンパクト形蛍光灯ダウンライトで、前に広がる海と往来の船を見やすくしている



3階高速フェリー通路のガーデンライト



1階にあるお土産ショップの照明



4階VIPラウンジの照明

■主な照明器具一覧

設置場所	器具名	形名	台数	ランプ
館内	埋込器具(バツフル付)	FHR-42858-PH9	19	32WHF蛍光灯ランプ×2
		FHD-31016-PM9	289	42Wコンパクト形蛍光灯ランプ
	ダウンライト	BFD-10002	48	15W電球形蛍光灯ランプ
			49	25W電球形蛍光灯ランプ
	ガーデンライト	GDL-623(改)	15	ネオボールZ EFD15EL/13-E17